

ご支援いただいた皆さまへ

この度の私の不祥事により、国民の皆様、地元の皆様を深く傷つけ、篤い信頼を失墜させてしまったこと、心よりお詫び申し上げます。

驕りがありました。コロナ禍で自粛を強いられる皆様に対し、

取り返しのつかない裏切りだったと猛省しております。

いま一度初心に返り、足元を見つめ直す覚悟しております。

報道等でご心配をおかけし、大変申し訳ありません。

皆様に自粛をお願いするさなか、深夜まで飲食してしまったことは、軽率で、不適切との誹りは免れることはできません。

また、事実と違う説明をしたことは、前途ある有望な後輩議員を庇う、その一心からでしたが、これは身内の論理に過ぎず、決して許されることはありません。深く反省しております。

令和三年二月一日、党の役職を辞任し、離党届を提出し、受理されました。

記者会見からの帰り道、思い起こされたのは、横浜市会議員に初当選した

一九九〇年、衆議院議員に初当選した一九九六年、そして、落選した二〇〇〇年当時の様々な出来事でした。30年余りの長きにわたり、松本純は、

神奈川一区の皆様とふれあい、その叱咤激励の中で、もがき、苦しみ、育てられました。その皆様から寄せられた尊いご信頼の数々を思うと、深い慟哭に襲われました。

いま自由民主党を離れ、たった一人の政治家として、神奈川一区に立つ私は、

一日も早く選挙区の皆様へお詫びしなければと、心落ち着かぬ日々を過ごしております。

皆様のお心を、いま改めて一身に受け止めさせていただかなければ、

松本純のこれからの歩みはない、いま、そう強く決意させていただいております。